

「生きるために、タバコは必要ありません」、でも一旦タバコを吸い始め、ニコチン依存症になってしまうと、「タバコがなければ生きていけなくなります」。

タバコの事を正しく知っていて、ニコチン依存症ではない人にとっては、今さらタバコに手を出すはずがありません。しかし、タバコの事を正しく理解する前に、興味本位や間違った認識のために、タバコを吸い始めてしまった大人がたくさんいます。そして、大人に限らず和工生のなかにも、ニコチン依存症の生徒がいます。

君たちの眼には、そんな喫煙者の姿がどのように映っているでしょうか。

今年5月に実施したアンケートでは、

「タバコを吸うのはかっこ悪い」・・・548人(50%)、「タバコを吸うのはかっこいい」・・・107人(10%)

「友達がタバコを吸うのはイヤだ」551人(50%)、「友達がタバコを吸うのは平気だ」348人(32%)

「家族がタバコを吸うのはイヤだ」667人(60%)、「家族がタバコを吸うのは平気だ」272人(25%)

でした。

この結果からみると、「喫煙者はイヤがられている」わけですが、だからと言って、友達として付き合うのをやめるわけでもなく、家族として生活を共にしている事だと思えます。

そこで、皆さんに知っておいて欲しい事があります。

タバコを吸い続けると、かなりの高確率で寿命が縮みます。ほとんどの場合40年から50年も吸い続けると、必ずタバコのせいで体のどこかに異常が現れます。君たちの年代、つまり中高生の頃に吸い始めたとする、定年退職した65歳以降に肺ガンや胃ガンなどを発症して亡くなるケースや、命を落とさないまでも、長い闘病生活を送る場合も少なくありません。毎年10万人以上が、タバコが原因で亡くなっている事実が、これを裏付けています。

自分の命を自分で縮めている、この状況は「喫煙は、ゆっくりとした自殺行為だ」と表現される事があります。

例えば、自分の目の前で、断崖絶壁から今まさに飛び降りようとしている人いたとしたら、とっさに助けようとするはず。これに対して、自分の目の前でタバコを吸う人がいても、それが命に係るとは思わず助ける人はいません。

しかし、タバコを吸い続けるのは、50年先に落とし穴がある坂道を下っているのと同じなのです。そのことを分かっておいて欲しい。そして友達や家族が落とし穴に落ちる前に、この坂道から助けてあげて欲しいと思っています。